

～ 武蔵小学校 6 年 2 組 ～

「武蔵（634）弁当をつくろう」 ＝ 学習のあしあと ＝

- 課題発見...「けいじばん」を通じて、各交流校が地域のよさを生かしておこめの消費拡大のための新商品づくりに取り組んでいることを知り、自分たちも武蔵小の地域の特徴を生かした新商品の企画を作りたいという目的意識を持つ。



村所小の「ライスピザ」



仁木小の「輪くわ米ッキー」



上北谷小の「こめだるま」



西美唄小の「ピバ・ライス・マガンシュー」

- 課題追求...これまでの学習や図書館・インターネットなどの資料をもとに、他地域の学校の新商品のよさを参考にしながら、自分たちの学校や地域の特徴を考え、新商品のコンセプトを決める。



ミニ水田での古代米の栽培



やっぱり「武蔵」

子どもたちはこれらの情報の比較から、「武蔵」の名前にこだわった新商品を開発する。学校のミニ水田で育てた古代米を使う。家庭科の学習で学んだ、バランスのとれた食事にふさわしいものにする。体育（保健）で学んだ体にいい食生活にふさわしいものにする。熊本県が進めている「地産地消」を取り入れる、といった点を確認していった。

- 課題解決...自分たちが開発した新商品のねらいや内容などを、より効果的に発信するのにふさわしい話題を選んで詳しく調べ、ミニ番組にまとめる。



CM 「武蔵・小次郎の対決」(0'48)
「みんなも武蔵弁当を食べて」「武蔵みたいに強くなろう!!」



リポート 「『武蔵弁当』の説明」(1'42)
「武蔵弁当の特徴は、ご飯6種類、漬け物3種類、おかず4種類にしたところです～」



リポート 「ポスター」(0'26)
「634にちなんで、～が分かるように作りました」



リポート 「ポスター」(0'16)
「634にちなんで、～という言葉が目立つように作りました」



エンディング(0'14)
「武蔵弁当が熊本の名物となって、日本中で愛されるといいですね!! では～」



CM & CMソング(0'38)
「宮本武蔵も食べてた、古代米ご飯の弁当だ。歯にいい、おいしい、スタミナ満点...」

子どもたちは、各グループごとに様々な資料を活用しながら熱心に企画を練り、番組作りを進めていった。

交流学习

完成した番組は、インターネットを通じて交流校や転校していった友達に見てもらい、感想を聞いた。

【武蔵小のビデオ見たよ！】に木小学校6年1組：市川美穂 さん(2月9日) *New!*
武蔵と小次郎が、剣などで戦っていたのに顔模倣だったのでびっくりしました。(真)

へんじをかく

【武蔵小のビデオ見たよ！】に木小学校6年1組：市川美穂 さん(2月9日) *New!*
ビデオみました！武蔵弁には、お茶の色が6種類で、道徳が3種類、おかげで4種類で武蔵(634)と覚えて武蔵弁を作っていたので、ほっそうがすこいと思いました！

へんじをかく

見せていただきました。おもわず涙が流れてしまいました。
それとあきひこ君が、全然見てないからなのか、とても賢い人に見えました。
普通に見ても、とてもおもしろいし、どういう風に撮影したかなどを知っているのとても笑えました。
最初は体育館裏で、次は、児童相談室(?)でやって、「見に行きました」といいながら、中身のことは、前のうちか、後のほうで撮ったのだと思います。
パンフレットは、掃除の時間に撮りましたね。音楽でわかりました。
そして予想通り、「おかな」と「おしま」の歌が NEW パージョンでとてもおもしろかったです。またあやなさんが作曲作詞ですか？
それから、ぼくの案や、写真を載せてくれて本当にありがとうございました。

～ ロンドン・あきら より～

今後は、こうした感想をもとに再取材や再編集を行い、より見応えのある最終版として完成させる予定である。

○学習の評価～「熊本県教育課程定着度調査」の結果から～

雨上がりのある日、近所の畑の横を歩いてみたみつるさんとさと子さんは、畑にある植木ばちのかけらのようなものを見つけました。よく見てみると、うすい土の色をしていて、さわってみるとすべすべしています。
さと子：「これ、教科書に出ていた土器じゃないかな。」
みつる：「うん、きっと土器だよ。確かめてみたいね。」
さと子：「土器だったら、大昔の人たちが、ここで生活していたと考えられるわね。いったいどんな...。」
<省略>
あなたは、その調べたいことを、どうやって調べますか。調べる方法を下に書きましょう。
調べたことを、みんなに発表したいと思います。どのような方法でまとめて、発表しますか。あなたの好きなまとめ方を書きましょう。

～ 6年社会科[4]から～

<結果>

では解答例に「十分満足できる」として示されている「インターネット(正確にはWebページ)で調べる」を挙げた子どもが、25人中19人(76%)もいた。残りの6人にも「専門家に聞く」を挙げた子が数名おり、その手段としてインターネットによる電子メールを念頭に置いているであろうことから考えると、指標になる数字はないが、かなり驚異的な割合になるのではないと思われる。

またでは、パソコン(プレゼンテーション)を挙げた子どもは7人(28%)である。これだけなら決して多い数ではないが、他に「OHCで実物を写しながら発表する」という「十分満足できる」に入れていいと思われるものや、さらには「分かったことを劇に表す」という「十分満足できる」に例示されているものよりもっといい答えなのではないと思われるものなどが多数ある。

<考察>

指標や比較になる数値がないので断定的なことは言えないが、漏れ聞こえてくる情報から判断して、かなりの好結果ではないかと思われる。2年間、「おこめ」を核にした交流学习に取り組んできた成果であろう。この機会を与え、お世話して下さった関係の皆さんに、心からお礼を申し上げます。